

◆第10回佐賀県GM21 ミーティング（概要）

次第

1. 挨拶
 - ・佐賀県市長会会長 秀島 敏行
 - ・佐賀県町村会副会長 岸本 英雄
 - ・佐賀県知事 山口 祥義
2. フリートーク

概要

1. 挨拶

（秀島佐賀市長）

皆さん、こんにちは。挨拶ということに抵抗があるのですが、何回もする、このGM21 ですから、それぞれの代表の挨拶と言う格式ばったものはやめてもよいのではなかろうかという考え方を持っている。せっかく立ちましたので一言述べさせていただきますが、前回のGM21 以降、市長選で住民の審判を受けたのが二人おりますのと、私とそれから横尾さんですね、一言だけ挨拶する機会を作らせていただきたいと思います。

おかげさまで4期目を迎えることができました。おかげさまという言葉はよくないかも知れませんが、無投票と言うのは初めてでございますが、なんか消化不良のような、本当に審判を受けたのかなと言う思いが強く、それだけ、原点に戻って頑張らなければならないと思いますが、これまでと同様、皆さんと一緒に、仲良く、それぞれの街の発展のため、そして、佐賀市政の発展のために頑張らせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

（横尾多久市長）

ご挨拶の機会をいただいたので、改めて、皆さん、こんにちは。

先の9月初頭に行われた選挙で、秀島市長と同じくといいますか、少し時期は早うございましたけど、結果、無投票でしたけど、新たに多久市長として、新たな任期が始まったところでございます。

このひとは大変激変でありまして、議会が遅れて始まったのが一つ、議会の半ば

で総選挙が始まりました。そして台風接近の中、多久聖廟 300 年以上の歴史の釈菜も行うというバタバタ感がありましたし、しかし、大変重要なことだと思っています。無投票というのは色んな議論があって、新聞記者の方にも聞かれましたけど、結果的に投票がないというだけであって、ウイングでいうと、右の端から左の端まで全て頭の中にいれて、ちゃんとおもんばかりながら、仕事をして責任を果たすということだと思っていますので、しっかり気合いを入れて臨んでいきたいと思います。

選挙戦では、3つのCを言いました。チェンジ、クリエイト、そしてチャレンジですね。要は、なにか新しいことにチャレンジすることと、創造的なこともどんどんやっていきたいということと、そして、最終的に色んな意味で変革をしていきたいと思っていますので、各首長の皆さん、また知事さんには今後ともご指導ご支援をいただきながら努めていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

(岸本玄海町長)

それでは、すみません。町村会、本日は会長であります、みやき町の末安会長がどうしても所用のため来れないということなので、私が変わって御挨拶をさせていただきますと思います。

最初に、個人的なことで大変申し訳ないのですが、3週間ほど入院しております、実際には世間に疎くなっております。退院して1週間ぐらいしかたたないのに、選挙戦もほとんどお手伝いできないという状況の中で選挙が終わってしまった、ある意味選挙でもショックを受けましたけど、今後の佐賀県の県政を、山口県政でしっかりと前向きに進めていただくように、これはお願いを是非しておきたいなと思っています。

それと、もう一つ、今日の新聞で皆さんご覧になったかと思いますが、いじめの件数が日本全体で 32 万件になったということが載っておりました。実は私ども玄海町は、昨日、総合教育会議と言うのを開催して、教育委員さんと色んな意見を交わしたのですが、いじめの話は1回も出てきません。うちはほとんど小中一貫校にして、いじめが本当に無くなりました。

学校教室をのぞきに行くと、9年生、8年生が休み時間に1、2年生のところに遊びに行ってくれております。そういう、子供たちを育むのには非常にいい環境になったなど。日本全体では 32 万件もいじめがあると認知をされたというふうに出ているので、いじめを経験した子供が大人になったときに、それがどういうふうな影響を社

会に与えるのか、是非、これも教育総合会議で、玄海町としては議論をしていきたいなと思っておりますし、今日は首長さんの集まりですから、首長さんもその点を自覚していただいて、協議をそれぞれ地域でやっていただくことが肝要ではないかと私は思っております。

来る前にはもっと色々な事をお話ししようと思っておりましたが、あまり長くしゃべらない方がいいようなので、今日はこの程度で、是非、皆さんのフリーストーキングで楽しい話になりますよう、期待をして、町村会からの御挨拶にさせていただきます。

一日よろしく申し上げます。

(山口知事)

このGM21 ミーティングも第10回になりました。色々試行錯誤しながら、市町と県と、21人が侃々諤々、色々議論しながら決めていくという方向については、ご同意いただいて、進めてまいりました。その間、ちょっと準備が大変だなとか、色々、元々が政治家同士の議論ということで私の意識はあったのですが、やはり、佐賀県らしいというか、しっかり準備してやろうという考え方もあって、特に事務方も含めてご迷惑をした段もあったのかなと言うふうにかがって、今回は改めて、10回目になったことだし、自由にですね、特に議題を決めることなく、時間早く終わってもいいので、議論してみたいということで、まあ、本来はクローズドでもいいのかなということで進めていたわけですが、どうしてクローズドなのという意見も色々関係の方面からあったので、別に、我々、誰に聞いていただいても分かると思いますけど、特に密談をしようと思っていたわけでも全くありませんので、また、政治家同士、何かここで話し合おうと決めたわけでもありませんので、そういうふうに思われるのであれば、若干口が重くなるかも分からないけど、いつものように開かれた場所で、フリーストーキングしてみようかということでございます。

ということで、今日はいつものように、議題は特段ありませんけど、色々な話をしてみたいなど。

私の方は、いくつか皆さんに聞いてみたいというのがあるのですが、それはまた後程お話をさせていただきたいというふうに思います。

そして、今回、総選挙がございまして、本当に皆さん、お疲れ様でございました。

西日本では、島根県に次いで高い投票率ということで、皆さんの啓発活動などについて敬意を示したいと思っておりますけど、特に今回は、島の開票の問題と言うものが、本

県議論になりましたけど、私は、私の方にも相談ありましたけど、佐賀県は7つの島を抜きにして語れないので、しっかり島の分を運んでから全県的に対応するというところで間違っていないのではないかと私は思います。そして、安全に投票箱を運んだうえで、できるだけ早く開票するという方針で進められたのかなと思いますので、これは唐津市さんを含めて感謝したいと思います。

今日は特段、観光パンフレットだけ持ってきていただいて、その問題意識は私のほうから説明させていただきたいと思いますけど、今日も、自由闊達に議論させていただきたいと思います。本日もよろしくお願ひいたします。

2. フリートーキング

(1) 高校生の県内就職率の向上について

- ・ 山口知事から趣旨説明。

(山口知事)

私は昨日まで滋賀県に行っていました。なぜかと言うと、大阪の市場から、滋賀県にある「平和堂」というスーパーマーケットが佐賀県産を20年以上、懇意になって、扱っていただいている。滋賀県の方は、さがほのかや佐賀みかんに詳しい。これは平和堂さんのおかげ。

滋賀県と佐賀県はよく似ている。大きなポイントは、子供のシェア（15歳未満人口割合）が一番高いのが沖縄で、2位が滋賀で、3位が佐賀。滋賀県と佐賀県は子供のシェアが多い県だという意味で似ている県ではある。

私が生まれた昭和40年7月現在で滋賀県と佐賀県は89万人で人口が同じだった。

私が52歳なので、52年前は同じ89万人だったのが、滋賀県は140万人になって、うちは82万人という環境になっている。

どこが違うのだろうか。滋賀県も関西圏、大阪や京都に近い農業県で人口が増えている。佐賀県は同じく福岡近郊圏であり、同じ農業県で人口が減っている。

一つ大きいのが、滋賀県の子供たちは外に出ない。佐賀県の子供たちは外に出る。

個人的感想もあるのだけど、薩長土肥の時代から明治の国づくりを支えてきた佐賀県が、多くの人材を外に出すことを大きな役割としていたのかもしれない。元々、佐賀県の工業高校は6割が県外に出て、4割しか残らない。そもそも、そういう構造になっているのかもしれない。

たまに私も話すことだが、私の誕生日の日の佐賀新聞には、大阪の知事が佐賀県庁にやってきて、「大阪は素晴らしい、大阪行くぞ」というシュプレヒコールをやっていて、佐賀県がこれを応援している。

そうした右肩上がりの時代の構造が佐賀県にもあって、色々教育委員会に聞いてみると、そもそも就職が厳しい時代の名残があるのかもしれないけど、多くの高校生を大阪や名古屋に就職させるルートがあるわけで、ずっとお世話になってきた。

ただ、今、非常に佐賀県が人材不足と言われる中で、我々21人が県内で働くことをもう少し考えてよいのではということで、このところ、「Re: さがミーティング」もそうですし、ものスゴフェスタだとか、県で10億円基金を積んだりして、佐賀県のものづくりは素晴らしいという話をしているところです。

この1年間で県内就職率が全国で1番高まったのは佐賀県です。元々、(県外に)出まくっていたという話はあるのかもしれないが。しかし、今、佐賀県は全国で1番、県内にとどまる率が上がっているというこの勢いを、首長さんの皆さんと一緒にもっとやることができたら、佐賀が素晴らしいということを話をするのができたらいいなと思っている。

人材流出県の絵を見ていただくと分かる通り、そもそも大学・短大が少ないという構造的な問題もありますし、就職の問題もあります。是非、何か皆さん方のアイデアなどがありましたらお願いします。

○主な意見等

ア 博多から通えるアクセス網の整備

- ・通勤時間や電車の本数等、公共アクセスの改善
- ・鉄道や地下鉄、道路等のハード面の整備

イ 生活や子育て環境の魅力を発信し、定住の促進

- ・自然体験などオフの充実に係る情報提供
- ・育児、幼稚園、保育園、放課後児童クラブなどの子育て環境の充実
- ・ユニークな教育や福祉施策の検討

ウ 県外に出た人を受入れる環境が必要

- ・大学卒業者向けの企業、研究施設等の誘致
- ・U I J ターン向けの採用枠の創出

エ 進路指導等の改善が必要

- ・進路指導の先生がもっと地元企業を知ることが必要
特に工業高校の進路担当は県内のいい企業を見て回るなどの取組必要
- ・地元企業の説明会への進路指導の先生や保護者の参加
- ・離職した子もいると思うのでその離職の状況の把握が必要
- ・成績の序列で就職企業を決めるのではなく、子供が働きたい企業を保護者、先生も考慮することが必要

オ 地元に残る子供を増やすため、故郷教育の充実を図る。

- ・子供の頃の伝統行事教育
- ・子供神輿^{みこし}など地域の行事への参加
- ・ふるさと教育のため、地元出身の先生の配置や校長の広域異動をしないでほしい。
- ・少子化における中高一貫校のあり方の再検討
- ・ふるさと教育用の副読本の作成
- ・小中高と連携した郷土教育の実施、高校生が小中生を教えるなど、市町と高校との連携

カ 障害児雇用で、知識をもった方を置く仕組みが必要

(2) 中学生スポーツ有望選手の県外流出対策について

- ・山口知事から趣旨説明。

(山口知事)

野球選手もそうだし、柔道もそうだし、サッカー選手もそうだし、近藤君とか、久保君が今度帰ってきてくれたりとかしてるんだけど、近藤君も直接話することで佐賀工業に踏みとどまってくれている。やっぱり、親御さんも含めて、我々首長たちが大事にするよと声掛けすることで大分違う。親にしてみると不安なわけで。将来この子が飯を食べていけるのかを含め、そういったところを、佐賀県は将来にわたって、指導者として久保君みたいに帰ってもらおうということも含めて、スポーツ選手に優しい県でありたいなと言うふうに思っていて、次の図のような感じで、要は、なんとかトップアスリートを育てていくというこの三角形の上をグッとあげて、全国・世界で活躍しているというところをやると同時に、今回の国体・全障スポを

通じて、草の根スポーツ文化というか、皆で運動することを楽しんで支える、サガン鳥栖や久光さんもそうだけど、支えていく喜びとか、自ら応援するとか、観戦するとか、そして、トップアスリートと触れ合うとか、トップアスリートだった選手、場合によっては挫折した選手も、今度は、草の根の方に回り込んで、皆で佐賀県のスポーツ界を一緒になって盛り上げていくみたいな、こういう構図がなかなかないものだから、このまま佐賀県にいて怪我したら将来どうするのという話になってくるので、佐賀県は考えていくというプログラムをこれからやっていきたいと思うので、是非、小学校、中学校で剣道が日本一になったりとか、バトミントン頑張ったりとかしているのを、目にかけてあげてほしいのと、ここはもう、市長さん町長さん頑張っていていただいているけど、これを続けていただいで、表敬とかで励ましていただきたい。

○主な意見等

ア 指導者について

- ・ 中学校の指導者が不足
- ・ 来年度からの部活動指導員制度検討にあたり、今の外部指導制度にプラスという形でうまくやってほしい
- ・ 部活動と社会体育を分けて、社会体育にシフトという方向性で検討必要
- ・ 小学校からの積み重ねが大事
- ・ 社会スポーツの指導者に光をあててほしい。

イ アスリートやプロ選手の採用について

- ・ スポーツの自己推薦枠をつくったら、多くの応募があったので、就職も色々と考えてみる。
- ・ 社会スポーツのすそ野を広げていければ、少年スポーツのコーチなどの受け皿も増える。

ウ 社会スポーツの充実が重要

- ・ 小学校、中学校、高校生、社会人（指導者）が一緒になったクラブが自発的にできて地域が盛り上がっている
- ・ 競技によってはシステムが既にできているものもある

エ 有望選手の県外流出

- ・ 中学から県外に出ていくような有望選手が、国体の際は、佐賀県でなく移転先の都道府県の選手として扱われるのはどうにかできないか。

オ 佐賀独自の教育制度の検討

- ・ 大学入学を目的とした現在の教育ではなく、その子のよいところを伸ばすことを目的とした教育が重要
- ・ 高校において、県立や私立含めてスポーツ種目のすみわけができればよい

カ 施設整備

- ・ 選手を支え、育てるためには施設を作る必要があるが、市町単独では大変なので、県も協力をして欲しい。

・ 山口知事のまとめ

(山口知事)

今日は2つ、県外に流出をという話に絡んで議論させていただいた。これから末永く考えていかなければならない課題。是非、市町の首長の皆様方も、色んな皆さん方も議論をしながら、佐賀県を大事にしていくという意味では21人共通していると思うので、そういう問題意識を持ってやっていきたい。

(3) 観光交流について

・ 山口知事から趣旨説明。

(山口知事)

最後に、今日は時間がないので、また別のときになんと思うのですが、最後の問題意識として、昨日、彦根に行った。米原の駅に降りると、米原の市の回りは灰色になっている。彦根は近くにあるのに、どこにあるのか分からない。簡単に言うと、市町のパンフレットとか案内図が、市町分だけになって他は灰色になっているのが見受けられるので、これはお互いさまだから。これから、来年も博覧会があるし、これから新幹線来るは、国体・全障スポとか、高総文祭もあるので、できる限り自分の町だけでなく、お互いさまの工夫をしないと。うちの市町は結構変形なので、ドームや縦型で、そこだけでは観光するのはあり得ないことであったりするので、その点検をして。うちであれば、佐賀県は柳川とか諫早も入れた方がいいわけで、自分の県だけで載せてしまうと、今の広域観光は。そういったところで、い

ずれ広域観光といった観光で議論させていただきたいと思いますので。最後に、ちょっと、今回嬉しかったのは、鳥栖と基山の投票率が上がっていて、東部の皆様方が住民意識が出てこられたのかな。あまり関係ないですかね。

(松田基山町長)

投票率が上がることは大変よいことだと思います。